

第8次総合計画基本構想(素案)への質問及び回答

通番	頁	該当箇所	質問・意見	回答・対応
1	P4	第3章/1 国の現状	環境問題である地域脱炭素「カーボンニュートラル」に関する内容を検討いただきたい。デジタル田園都市国家構想のように国の方針に沿った取組を政策に盛り込むとの内容が記載されている。加えて、総合計画の期間は8年となるため、カーボンニュートラルに関する事項に触れておくことが望ましいと考えられる。再生可能エネルギー、省エネによる脱炭素は、SDGsや国の政策の方向性と一致するため、検討いただきたい。	「カーボンニュートラル」の視点は、SDGsの概念に包含されると整理し、特出しはしないこととする。 ただし、基本計画事業において、環境問題に関する取組を検討する。
2	P7	第3章/2 多治見市の現状と課題 (3)多治見市の課題 ③	創業支援と並行して、空き家活用にも今後ますます力を入れて取り組む必要がある。たじみ DMO では、「さかさま不動産(※)」という取組を昨年度から開始し、情報発信や実際に貸し手と借り手をつないでいる。また、以前よりフィールドワークで得た、このまちに暮らす方々との関係づくりが少しずつ実を結んでいる。 (https://a2tajimi.jp/c-location/3567/) 所管の会議では、「商店街がシャッター通りになっていて寂しい。どこかの商店街を集中的に支援し、にぎわいを生んでは」という意見があるが、店舗は閉店したものの住居として使用する例が少なくない。日頃のお付き合いも含め、地道な取組により市民との信頼関係を築くことが一番大切。また、官民、そして町内会が連携し、まち全体として取り組むことが大事。	空き家(空き店舗)活用は市の課題と認識。創業支援と併せ、市民の理解を得ながら、関係機関と連携して引き続き取り組んでいく。優良事例を参考にし、具体的な手法等は、基本計画事業の中で検討する。
3	P9、 10	第4章/1 まちづくりのビジョン 「多治見らしさ」全般	「多治見らしさ」は、抽象的すぎる印象があるため、削除の方向で扱いを見直してはどうか。	「多治見らしさ」は、本市が普遍的に引継ぎ、発展させるものと考えている。表現が他自治体と類似することもあるが、本市の特長であるため、内容をより具体的に記載する。

4	P9、 10	第4章/1 まちづくり のビジョン 「多治見らしさ」全般	「多治見らしさ」の表現が抽象的。市民がわかるように具体性を持たせたらどうか。	表題は、若干修正している部分もあるが、第7次総合計画をベースとしている。なお、内容については、多治見の特長・特色等の具体的な内容に触れる等、分かりやすくする。
5	P9	第4章/1 まちづくり のビジョン 「多治見らしさ①」	「安心」の観点から、豪雨に弱い地震に強いという特色をあげたらどうか。	地理的・地形的な特色ではあるが、追記は控える。 〔理由〕 ①豪雨に弱いという点…平成 23(2011)年の豪雨災害を受けて、ソフト・ハード両面からの浸水対策を進めてきたため ②地震に強いという点…根拠が十分でないため
6	P9	第4章/1 まちづくり のビジョン 「多治見らしさ②」	海外への美濃焼の販路拡大を加えてはどうか。	海外への販路拡大について触れるため、「多治見らしさ②」にて「国内外への情報発信」とした。
7	P9	第4章/1 まちづくり のビジョン 「多治見らしさ②」	美濃焼の文化や食等の歴史などから、市民をはじめ人々が魅力を感じられる「多治見らしさ」であってほしい。	第4章前文で、美濃焼の歴史、文化に触れているが、意見を参考に検討する。
8	P9、 10	第4章/1 まちづくり のビジョン 「多治見らしさ③」	「子育てしやすいまち」として、経済的支援だけでなく保護者や子どもの将来に寄り添った支援が大切ではないか。	具体的な支援方法は、基本計画事業の中で議論する。
9	P9、 10	第4章/1 まちづくり のビジョン 「多治見らしさ③」	社会全体で子どもを育てることがまちづくりにもつながっていくという視点が「多治見らしさ」にあるとよい。	市民活動による子どもの心身の成長に触れているが、ご意見を参考に検討する。
10	P9、 10	第4章/1 まちづくり のビジョン 「多治見らしさ③⑤⑥」	本市から通勤・通学で市外へ転出する方が約 3 万人(人口の3割ほど)いる。学生も含まれるが、会社員で普段は寝に帰るだけで地域に関わりが少なく、親しみを覚え、住みよいまちと思ってもらうことが必要。特に、多治見らしさ③⑤⑥については、市外に働きにでる共働きや単身世帯の視点があると良い。	本市は、名古屋圏のベッドタウンという特徴から昼夜間の人口差が顕著である。子育てのしやすさ、交通アクセスの充実等の「多治見らしさ」を市民に親しみあるものに育んでいけるよう参考にさせていただく。また、昔は見られた地域コミュニティが、時代の流れと共

			・多治見らしさ③:子育てしやすいまち 共働き世帯に優しい保育施設や仕組み ・多治見らしさ⑤:都市間の交通アクセスに優れたまち 交通渋滞の緩和と、通学路の整備 ・多治見らしさ⑥:市民活動が活発な町 町内会事業が従来から変わらず、負担に感じる若い世帯(共働・単身世帯)が町内会を退会・加入を見送ることがある。現在のライフスタイル合った仕組みに見直し、参加しやすい仕組み作りが必要。	にライフスタイルや価値観の変化等により薄れてきている状況。「市民活動が活発なまち」を示せるよう、基本計画事業において、体制の見直し等を検討する。
11	P14	第5章/ 2 政策の柱(1)	不妊治療は、昨年4月から一部の治療が保険適用となり、経済的負担が軽減された家庭はあるが、治療内容が限られるため多くの方が自由診療(全額自己負担)を選択している。保険適用を背景に、県や市独自の助成金が廃止されている現状。今後は、自由診療を選択した人に対する救済措置として、市独自で取り組んでいただきたい。人口減少・少子化対策が急務と捉えている本市として、「支援拡大」と表現されるのであれば、全国に先駆けて助成金など経済的支援と、メンタル面へ伴走型の支援など具体的に進めてもらいたい。	不妊治療について、7次総では経済的支援及び相談事業を実施してきた。保険適用及び高額療養費制度の対象となつてことを踏まえ、市独自の経済的支援は終了となったが、県独自の新たな助成事業が開始した。今後の方針は、国や県の動向を踏まえ、基本計画事業の中で検討する。
12	P14	第5章/ 2 政策の柱(1)	「第2子以降を対象にした3歳児未満の保育料無償化」について、なぜ第2子以降なのか。	子育て世帯のニーズや市の財政状況を踏まえ、まずは「第2子以降」に焦点を当て、経済的負担を軽減するとともに、第2子以降を希望する人の経済的不安の軽減を意図したもの。
13	P14	第5章/2 政策の柱 (1)～(3)関連	政策の柱(1)～(3)に繋がる提案として、多治見の豊かな自然環境を活かしたふれあいの場、憩いの公園(BBQ、ウォーキング、カフェ、フリーマーケット等様々な催しができる施設)があるとよい。(例:リバーポートパーク/美濃加茂市、ふれあい公園緑の丘/可児市、学びの森/各務原市)。市内の公園は遊具、広場を備えた子どもが遊ぶ場所という感覚。集い・交流の場などリラックスできる融合的な公園となるのが望ましい。多機能で魅力的な公園があることで、市外からも多くの	政策の柱(1)～(3)に関連した提案であるが、整理としては、公園整備の観点から(5)「持続可能で快適に暮らせるまちづくり」に該当するもの。 提案内容の充実が柱(1)～(3)への好循環をもたらすため、実現に向けては、基本計画事業で議論する。

			子育て世代が遊びに来られる、多治見を知れる、リピーターとなる。集い・交流の場は子育て世代だけでなく、全ての年齢層に共通して意義がある。年を重ねて気づく、緑や植物、山や川、自然に溢れた多治見の幸福感を、赤ちゃんのうちから積み重ねていくことが大切。	
14	P14	第5章/ 2 政策の柱(3)	「市内には…医療機関が充実し、…」について、市民病院の産科開設など、医師不足・産科不足への対策は市としてどのような方針か。東濃地方は分娩できる医療機関が大変少なく、可児市や名古屋市へ通う人が多い。里帰り出産もままならない中で、若い世代の定住は現実問題として難しいのではないか。	市民病院の産科開設は、7次総において検討を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響が重なり、結論には至っていない。引き続き、指定管理者と連携し、市民ニーズや実現可能性を十分に検討する。
15	P14、 15	第5章/2 政策の柱 (4)関連	まずは子育て支援を中心に、スポーツ振興によるまちの活性化もあるとよい。	第5章/2 政策の柱 で触れているが、ご意見を参考に検討する。
16	P15	第5章/2 政策の柱 (5)関連	各町内に空き家が何軒あるか。	平成 30 年の住宅土地統計調査による空き家(その他の住宅に該当するもの)は、4,470 件で総住宅数の 9.2%である。町内単位での空き家は把握できていないが、通報のあった物件については、随時現地調査をし、台帳により管理している。
17	P14、 15	第5章/1 第8次総合計画で目指すまちの姿	市長マニフェスト「誰一人孤立させない」から、誰もが楽しく幸せを感じられる表現になるとよい。	第5章/2 政策の柱 に市長の3つの思い加筆。
18	P14、 15	第5章/1 第8次総合計画で目指すまちの姿	「誰一人孤立させない」という市長の思いを大切にしてほしい。	同上
19	P14、 15	第5章/1 第8次総合計画で目指すまちの姿	多治見への愛着、子どもが転出してもまた戻りたいと思ってくれるまちになるとよい。	第3章/2 多治見市の現状と課題/(3)多治見市の課題/①年齢区分別にみた課題/イ 若者 で、「また多治見に戻ってきたい」と思えるまちづくりの必要性を加筆。

※ いただいたご意見は、基本構想や基本計画を策定する上での参考とさせていただきます